

令和三年度 卒業証書授与式 式辞

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年と同様次第の一部を割愛し、出席者の規模を縮小しての挙行となりましたことは、誠に残念ではありますが、皆様にご理解とご協力を賜っておりますことを心より感謝申し上げ、式辞を述べさせていただきます。

ただいま、卒業証書を授与されました537名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本校五十七期生として、平成三十一年4月に喜びと希望を胸に本校に入学しました。入学早々、クラスメイトや教職員との交流を深めるための「新入生遠足」で共に汗を流し、秋には、「大学見学」で進路情報を収集し、本校の文化祭「第26回育英祭」では、各クラスで発表する催しとたくさんの来校者で盛り上がりました。

しかし、高校生活の残り2年間は、新型コロナウイルス感染症拡大により十分な活動ができない日々が続きました。2年次早々学校は、「一斉休校」となり、「分散登校」となることもありました。そのため学習活動は、課題やオンライン授業で対応し、部活動は休止や短縮など制約の中での活動となりました。そのため多くの大会が中止や延期となり、夏のインターハイや甲子園は、中止。さらに修学旅行も中止となり、非常に悔しく残念な思いをした人は、多かったと思います。

そして、最終学年となった3年次でもコロナ感染症の波が続きますが、2020東京オリンピック開催により、制約ある中で夏のインターハイは実施され、何と言っても甲子園大会は、5大会連続六度目の出場を達成し、吹奏楽部やダンス部による応援も実現しました。冬の高校サッカー選手権は、男子が2年ぶり24回目の第100回大会に女子は、8年連続8回目の出場を決めて、さらに男子バスケットボール部も12年連続16回目のウインターカップへの出場を決め、スポーツ強豪校の伝統を守り、学校全体としての盛り上がりを経験する事が出来ました。

皆さんにとっての高校生活は、本来であれば毎日学校で授業を受け、部活動に汗を流し、学校行事でクラスメイトと協力し活動することが当たり前であるはずでした。しかし、コロナ禍にあって、日常の学校生活を送れることのありがたさをあらためて、知ることが出来たとも言えます。皆さんは、新型コロナウイルス感染症拡大の中でいろいろな制約を受けながらも、それぞれの目標に向かって精一杯よく頑張りました。結果、皆さんは大きな試練を乗り越えて、本日卒業の日を無事迎える事が出来ました。

さて、皆さんがこれから歩む未来は、予測が困難な時代とも言われます。温暖化による地球環境の変化や、AIなどのテクノロジーによる劇的な社会の変化など正確な予測は誰にも想定できないと思います。現に百年に一度のパンデミックと言われる新型コロナウイルス感染症拡大は、現在の人類が、乗り越えなければならぬ大きな試練の一つです。しかし、これまでの人類の歴史を振り返れば、何度となく繰り返され、そのたびに乗り越えてきました。

そこで、これからの未来を生きる皆さんに向けて、ぜひ紹介したい言葉があります。本校は、来月60回目の入学式を迎えますが、本校創立者である群馬育英学園・現学園長中村有三先生の言葉を紹介したいと思います。先生の自伝的著書「夢ありてこそ」のはじめに本校開校にあたりその熱い

思いを次のように語っています。『全国的な高校不足の中で、「普通科高校の増設を」という社会の要望に応える形で誕生したわが学園の歩みは、必ずしも平坦なものではなかった。私自身、数々の厳しい試練に直面もした。そのつど「不撓不屈」の精神で、難局を乗り越えてきたのである。なぜそれができたか。それは「大きな夢があった」からだ。夢ありてこそ、情熱と確信が生まれた。やってやれないことはない。やれないのは、やらないからだ。「若者たちの明日のために、大きな夢を与えたい。自分たちの母校として誇りうる学園に発展させなければならない』とあります。「不撓不屈」とは、強い意志を持ち、どんな困難や苦悩にもくじけないという意味です。これからを生きる皆さんにどんな試練や困難があろうとも「不撓不屈」の精神で乗り越えてください。私達は、これからも皆さんの更なる飛躍を信じて、応援します。頑張ってください。

最後に、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様にとりましても、お子様の三年間の成長を前に、喜びもひとしおのことと推察申し上げます。今日の良き日を迎え、立派に成長されたお子様のご卒業に、教職員一同、心よりお慶び申し上げます。本日まで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

また、本校との連携をいつも大切に考えてくださっている、系列校・姉妹学園の皆様にも改めて感謝を申し上げ、式辞といたします。

令和四年三月一日
学校法人 群馬育英学園
前橋育英高等学校
校長 金子 雅人